



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 —

真反対の正義

"人間は自分は絶対に正しいと思い込んだ時に最も残酷な事をする"(司馬遼太郎)。この言葉を見つけた瞬間、この文字に後光が差しとったよ。そして目からは大量の鱗が落ちていった。

鍼灸を学ぶ中で「万物はすべて陰陽で構成されている」と勉強してきたけど、「正義」については分けることはできなあって考える日々が続いとったんよね。それぞれの中に正しさがある。「私の正義」の反対は「誰かの正義」。反対にあるけどどっちも間違いじゃない。ただ、無理やりこちらの正義を押し付けようとしたり、別の正義を悪ととらえてしまうと、同じ目的を持って一緒に歩いてても衝突が生まれる。そしてこのとき「自分こそ正義」と思っていると、人に対して怒りをぶつけることや傷つけることを躊躇うことなくやってしまうし、それすらも正当化してしまう。怒りという感情は簡単に燃え広がるし、その時の言葉や態度や行動は相手に一生モンの傷を負わせる。これが司馬遼太郎の言う、『最も残酷な事』なんやと思う。

今年のクリスマスは、自分と真反対の正義に遭遇しても、怒らず容易に受け入れることのできる器をお願いすることにした。クリスマス、まだまだ先やけど!

(テノヒラkiku)



御荘文化センター図書室より

“2月の新着図書ピックアップ”の紹介

【絵本】

『ハリネズミのチクチク』

ふくざわ ゆみこ(作・絵)／ひかりのくに(発行)

「ちえっ!ぼくのハリってなんでこんなにながいのだろう。だいきらい!」ハリネズミのチクチクは丘の上で丸くなってすねていました。そんなある日、毛が長すぎて困っているヒツジさんに出会います。その毛を切ってあげることになったチクチク、ひらめきます!チクチクのひらめきは周りのみんなも巻き込んで…。



【ノンフィクション】

『本屋のない人生なんて』

三宅 玲子(著)／光文社(発行)

ネット書店で本を取り寄せる習慣は私たちの生活に定着し、商店街の小さな書店はもはや当たり前風景ではなくなっている。しかし、それでも新しい本屋を開く店主たちがいる。北海道から九州まで、11の気骨ある独立系書店取材し、そのこだわりと営みに注目。そこには、本と人を繋ぎたいと願う人の想いがあった。



御荘文化センター図書室では、毎月「御荘文化センター図書室だより」を発行しています。図書室だよりを通じてピックアップ図書以外の新着図書情報やそのほか新しい情報を皆さまに発信しています。町のホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。



愛南町
ホーム
ページ